



菅波 茂

AMDAの歴史上類を見ない、わずか5日ほどの間に4カ国で甚大な被害をもたらした自然災害が発生した。04年12月26日に発生したスマトラ沖大地震及びインド洋大津波に匹敵する地理的スケールだった。具体的には、9月26日ごろから続いた台風による長雨がフィリピン・マニラを襲い、約3000人の死者を出した洪水、9月29日に発生し、150人近くの死者を出したサモアの津波、9月30日に発生し、約1120人の死者を出したインドネシア・スマトラ島沖地震、そして9月29日ごろから発生し、約2000人の死者を出したインド・カルナタカ州の洪水である。

被災者の数は360万

人を超えたとも言われる。AMDAはフィリピン支部、インドネシア支部、カナダ支部、ニュージーランド支部、そしてインド支部と連携して4カ国の災害被災者救援活動に対応することができた。緊急救援医療チーム派遣に参加していただいたスタッフや資金面などで協力をいただいた個人や団体の方々に改めて感謝申し上げたい。

フィリピンではフィリピン支部や空軍と協力して生活物資支援や巡回医療を実施できた。多数の島々から成り立ち、災害で道路が遮断されやすい救済活動は空軍との協体制が不可欠である。例えば、06年12月のルソン島南部にあるレガスピ市での台風被害被災者救援活動ではAMDA医療チームはマニラ市からレガスピ市まで空軍機による輸送の恩恵を受けた。今回

4カ国で連続発生した災害救援医療活動

回の活動では、調整員として現地に派遣されたフィリピン出身で倉敷市在住の古城調整員の人脈に大変助けられたことを特記したい。

インドネシア・スマトラ島の被災現場では、発生の翌日に被災地に到着したインドネシア支部派遣医療チームが日本からの医療チームを受け入れてくれた。整形外科医と麻酔科医を主力とするインドネシア支部医療チームはパダン市民病院で骨折患者らの手術を実施し、日本からの第一陣と第二陣の合計7人の医療チームはパダンから北に延びる村落部で巡回診療を実施した。

派遣された調整員とニュージーランドから1人の心的外傷後ストレス障害の専門家派遣することができた。

インドネシア・スマトラ島の被災者に対する救援活動では温かいメッセージを頂いた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

が職場復帰。AMDAは地震発生後13日目に撤収を決定した。なお、日本医療チームに自宅を宿舍として提供いただいた西スマトラ州日本人会会長上原俊司氏にもあらためてお礼を申し上げたい。

サモアの津波被災者救援活動の最大の問題点は日本からニュージーランドの航空チケットが満席で数日間にはわたり確保できないことだった。カナダ支部の尽力で被災地の医療機関と連絡が取れ、人間関係を再構築することは新しい課題である。なお、10月10日に予定していたAMDA創立25周年祝賀会は厚生労働省のインフルエンザ流行予測のため中止することになり、多くの方々に迷惑をおかけした。一方、この度の四方国の災害被災者に対する救援活動で

約10日後には被災地すべての医療機関が復旧し始め、地元医師の半数以上が職場復帰。AMDAは派遣。インド支部の協力で学用品を提供し、今後必要があれば、AMDAと協力協定を結んでいるマニバル大学が飲料水の検査と医療チーム派遣を検討している。

「救える命があればどこへでも」のスローガンを守ることができたのは従来のAMDAの国際相互扶助ネットワークに加えて、新たな人たちの協力の賜物だった。在日外国人の方々の母国における人間関係を再構築することは新しい課題である。なお、10月10日に予定していたAMDA創立25周年祝賀会は厚生労働省のインフルエンザ流行予測のため中止することになり、多くの方々に迷惑をおかけした。一方、この度の四方国の災害被災者に対する救援活動で